

---

# アンビエントメディアとしての観葉植物

Emotional Plant

塚本 裕介  
首都大学東京  
yes.yusuke.yes@gmail.com

馬場哲晃  
首都大学東京  
baba@tmu.ac.jp

キーワード: アンビエントメディア, 観葉植物, インタラクティブ

---

## 1 背景

人々の日常生活の中で、情報を出力するメディアが私達の周りには溢れている。例えば、人が現在の時刻を確認する際に多く場合において「時計」というメディアが利用されている。一般に「時計」というメディアには多くの種類が存在する。長針と短針があり、針が時間経過に応じて少しずつ動く「アナログ時計」やセグメントLEDで数字を表す「デジタル時計」、太陽光を利用した「日時計」、腕に身につける「腕時計」、さらには曖昧な時間把握である「腹時計」など、時刻表現一つを挙げても多くの表現手法が存在し、情報提示手法は必ずしも一つではなくてよい。本研究では情報提示手法としてアンビエントメディアを利用し、ユーザの環境に自然に溶け込む情報提示を実現できるものを目指す。

生活の中で情報(温度/湿度/日付/時刻等)をスムーズに出力できる要素の一つとして、人のストレスを緩和できるような外見が好まれる。1995年に発表された *Calm Technology*[1]では、"Encalming (心を落ち着かせる)"ことと人の注意を引きつけることによって、情報の過多を軽減する技術を表現することについての論考がなされている。そこでアンビエントメディアの実装手段として本研究では人工の「観葉植物」を利用する。近年、森林浴やアロマセラピーなど植物がもたらす健康効果などが話題となっているが、植物には人をリラックスさせる効果があり、実際に室内緑化することによってストレスが緩和される[2]というデータが出ている。

## 2 概要

外見は鉢に植えられた観葉植物になっており、プロトタイプ

では人工の観葉植物を用いる。室内のテーブルやキッチンなどに気軽におけることを考え、大きさは縦の長さは20cm~30cm、横の長さは15cm。

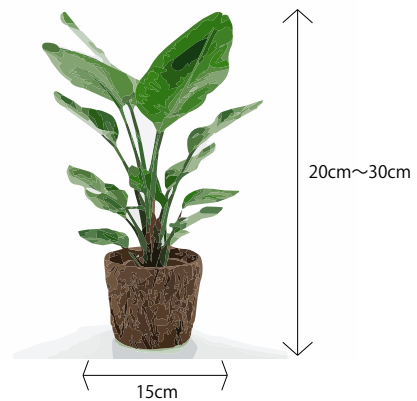


図1 a rough sketch

システムとしては温度、湿度、時刻情報を姿勢や動きを用いて表現する。例えば、室内の不快感が高い場合、葉や茎が萎んでいるような表現や、時刻に合わせて葉や場合によっては花の向きを変える。植物の動きを表現するにはアクチュエータを利用する。Nakayasuら[3]は植物の動きを形状記憶合金を利用して表現しており、この手法は本研究においても応用可能であると考えられる。

## 参考文献

- [1] Mark Weiser and John Seely Brown, Xerox PARC Designing Calm Technology 1995
- [2] 室内緑化によるオフィスの労働環境向上に関する研究 人工植物の緑化量による影響の検討 2014
- [3] Akira Nakayasu and Kiyoshi Tomimatsu. 2010. SMA motion display: plant. In ACM SIGGRAPH 2010 Posters (SIGGRAPH '10). ACM, New York, NY, USA, , Article 29, 1 pages. DOI=10.1145/1836845.1836876 <http://doi.acm.org/10.1145/1836845.1836876>